



富田の一里塚史蹟(県指定記念物(史蹟))①

富田の一里塚は織田信長が、36町歩を一里(約4km)として塚を建てた事が始まりで、江戸時代初期に整備されました。ここ富田三丁目(西町)の近鉄名古屋線高架下道路沿いの富田の一里塚には、かつて道路両脇に榎木と松の木が植えられ、行き交う旅人の目印とされ休憩場所となっていました。県の記念物指定は昭和12年11月10日です。



八幡神社②

祭神: 誉田別尊(応神天皇)

富田六郷氏神記に「八幡大菩薩は弘安2年(1279)2月15日、富田の地頭佐原豊前守政盛によって東富田に勧請(神や仏の霊を移して祀ること)される。」と記されているのが八幡神社の起こりです。境内には「力石」が残されています。



成徳山善教寺(真宗高田派)⑥

前身は海戸尻道場であり、元和3年(1617)真宗高田派十三世義真上人より「善教寺」という寺号を下付されました。境内の収蔵庫には国指定重要文化財「阿弥陀如来像」が安置されています。昭和28年同像を修理したとき、胎内から般若經、阿弥陀經、尊勝陀羅尼、摺仏、作善願文、作善日誌が発見されました。



北村町の六地蔵⑦

善教寺前に北村の6体の地蔵が安置されています。かつては、地藏堂とともにありましたが、堂宇は平成29年に老朽化のために撤去されました。地域の守り地蔵として、親しまれています。



茂福町の地蔵⑪

薬師寺前には茂福町の地蔵があり、以前には地藏堂がありましたが、現在は7体の地蔵のみとなっています。子供を守ることや交通安全の祈願など、地域のまもり地蔵として親しまれています。毎年8月24日には子供地藏盆の行事が行われています。また、古川町、北村町、茂福町のほか、富田霊園(大字茂福)には、壇陀、宝珠、宝印、持地、除蓋障、日光の六地蔵が設置されています。



光明山常照寺(浄土真宗本願寺派)⑫

天文7年(1538)釋法導によって開山され、寛文年間に天台宗から浄土真宗本願寺派に改宗しました。現在の本堂は、明治42年(1909)に再建されました。鐘楼堂、山門は明治末期に建立されました。平成7年11月に本堂、鐘楼堂、屋根瓦が修復されました。境内左側小堂には千手観音像が安置されています。この堂は茂福地区が管理しています。



行啓記念道路の碑 ③

行啓とは、皇后、皇太子等が外出されることを言います。明治43年11月16日大正天皇が皇太子の時に、国鉄富田駅で降りられてここを歩かれたことを記念して、昭和2年1月に建立されました。第3師団と第15師団の対抗演習を見学のため、三重県立第2中学校(現四日市高校)にお立ち寄りになられ、創立間もない中学校に殿下をお迎えするという出来事に、職員・生徒・住民の感激は大変なものであったそうです。



稲荷社(吉玉稲荷、鎮火稲荷) ④

吉玉祭事・宇迦之御魂命稲荷神社は、伏見稲荷神社より明治39年(1906)に勧請されました。神殿には、三種の神器「別格大々祀式」の書簡があります。境内には天地龍神の碑もあります。また、鳥出神社内にも稲荷社があり鎮火稲荷といい、伏見稲荷神社から勧請されました。



明治天皇御駐輦跡の碑 ⑤

東京へ行かれる途中、明治天皇が明治元年9月24日、四日市に宿泊され、翌25日に富田一丁目(富田茶屋町)の廣瀬五郎兵衛方(現在の小学校正門付近・赤レンガ塀が昔の面影を残している。)にご休憩され、富田名物焼蛤をご賞味されました。その後も3度休憩に立ち寄られています。現在、富田小学校正門南側にその記念碑があります。



常夜燈 ⑧

常夜燈は、神社の境内にあるのは神に捧げる灯です。町の中や街道で見る常夜燈は、今で言う街灯や道しるべなどです。碑表には「常夜燈」と刻まれ、下に「氏子中」とあります。碑陰(裏)には「天保十巳亥年」(1839)とあり昔を伝えています。もう1基の中町にあった常夜燈は鳥出神社に移設されています。



若宮八幡神社 ⑨

祭神:大鷦鷯尊(仁徳天皇)
神社発祥の時代は不明ですが、たびたび氾濫する十四川を鎮めようと社を築いたのがその起源といわれています。境内には「力石」が奉納されています。



薬師寺(浄土宗) ⑩

大同年間(806~809)悪性の伝染病が流行し、弘法大師がその様子を見て仏の慈悲によって救おうと薬師如来を彫り開基しました。たちまち住民の病はなおり、住民は大師に感謝し、堂宇を建て薬師如来を祈願したのが始まりです。本尊の両脇には十二神将があります。60年に一度、秘仏の薬師如来が開帳され、法要が営まれます。



新設用水道碑 ⑬

明治35年頃より茂福地内耕地整理が始まり十四川の改修工事に伴い、村へ流れる小川がなくなり、東大浜の水田に水が入らなくなりました。このため、十四川より土管による工法で通路の下に水路を設け、各戸に「マンボ」を作り防災・生活用水として利用していました。明治37年8月竣工して以来、大正・昭和初期までこの用水を利用していました。



林光山證圓寺(浄土真宗本願寺派) ⑭

以前は天台宗でしたが、天文(1532~1555)に住職が本願寺第十世門主證如上人に皈依し、浄土真宗に改宗しました。永禄10年(1567)に茂福掃部輔盈豊が滝川一益に謀殺され、家臣の林玄證は盈豊の遺子(当時2歳)を養育し、後に家督を譲りました。遺子の林三郎左衛門盈景及びその末葉は茂福證圓寺住職になりました。現本堂は明治39年に再建され、本尊は阿弥陀如来立像です。



茂福神社 ⑮

祭神:建速須佐之男命ほか8柱
応永28年(1421)摂津守政平が越前朝倉よりこの地に赴任し、建速須佐之男命と天照大神を祀りました。茂福城落城後も祭祀が続けられ産土神となりました。境内には鳥居、石灯笼、狛犬、太鼓橋など石造物が多く奉納されています。この神社には、11月23日勤労感謝の日に催される「亥の子神事」が伝えられています。



茂福城跡(市指定記念物〈史跡〉)①⑥

応永28年(1421)摂津守政平が城を築き、戦国時代には、茂福合戦がありました。永禄10年(1567)城主茂福掃部輔盈豊は織田信長による伊勢攻めの折、信長家臣滝川一益により長島城で謀殺され、その翌年に茂福城も落城しました。城跡は近鉄富田駅・霞ヶ浦駅間の線路の東に位置し、明治37年(1904)には記念碑が建立されました。市記念物指定は昭和49年10月23日です。



月光山正泉寺(真宗高田派)①⑦

高田派十世真慧上人の高弟唯円が、永正4年(1507)照泉寺を開基したのが始まりです。本尊は阿弥陀如来立像です。正徳元年(1711)、山号「月光山」を本山より賜り、明治に入って、照泉寺から正泉寺と改められました。開創当時は、大矢知村青木谷にあったと伝わっていますが、元和年間(江戸時代初期)に現在の富田に移りました。



鳥出神社①⑧

祭神:日本武尊・事代主神ほか11柱
富田の氏神として親しまれ、その名前は、日本武尊が没後白鳥となり熱田に飛び立ったことに由来すると言われ、富田という地名は鳥出が訛ったものだとも言われています。本社の造営は天正13年(1585)以来、伊勢神宮の式年遷宮毎に建造物を拝領し、現在の本殿、神門、瑞垣、鳥居、社務所等はいずれも伊勢神宮の古材により営繕されています。



明香山願入寺(浄土真宗本願寺派)②②

慶安2年(1649)伊勢国朝明郡東富田村の地に、臨海庵と称した富田道場が始まりです。その後、京都市下京区の願入寺と称する寺が、明治23年(1890)に富田に移り、臨海庵道場を願入寺と改めました。初代の住僧は祐頓であり、現在は第19代目です。また、寺子屋として多くの子供たちが学んでおり、明治7年富田小学校が開校する前身となっています。



富田一本松(市指定記念物〈史跡〉)②③

戦前の絵葉書にもなっている有名な一本松です。内海航路の船や漁船の目印となり、700年以上を生き抜いた高さ12mのこの松も、伊勢湾台風の影響で昭和35年(1960)に、枯れてしまいました。現在は2代目の松が育ち、そのそばには山口誓子の句碑が立っています。市記念物指定は昭和49年10月23日です。



山口誓子の句碑②④

俳人・山口誓子の句碑は、四日市市内の8カ所にあります。40歳頃約7年間の病氣療養のために、富田地区で暮らしていました。その時、美しい星空を絶賛し「露更けし星空ざっしり死すべからず」の一句を残しています。富田の一本松の横の句碑には「町なかの昔の松の春の暮れ」が刻まれています。



宝井其角の句碑②⑧

東海道五十三次の桑名宿と四日市宿の間にある富田は、間の宿として栄え、西国大名の参勤交代などで賑わっていました。「蛤の焼かれて鳴くや郭公」、この句は江戸時代に芭蕉十哲の一人宝井其角が中町の旅籠尾張屋の店先で詠んだもので、その当時の句碑が富田浜に記念碑となって残っています。

桑名の焼蛤、実は富田の焼蛤

「東海道中膝栗毛」では、七里の渡しを渡った弥次さん喜多さんが「桑名につきたる悦びのあまり、めいぶつの焼蛤に酒くみかわして」とされています。実はこの焼蛤、小向(朝日町)と富田の名物でした。江戸の初めから出回っていた各種道中記(いまの旅行案内書)のどれにも、焼蛤は桑名の名物として採り上げられていません。「東海道名所図会」でも、「名物焼蛤一東富田・おぶけ両所の茶店に火鉢を軒端へ出し、松毬にて蛤を焙り旅客を饗す。桑名の焼蛤とハこれ也」と記されています。富田が当時桑名藩領であったことから桑名の焼蛤となったようです。

富松山蓮光寺(真宗高田派)②⑨

寛正元年(1460)真慧上人が親鸞聖人座像を南部家の念持仏として下賜され、慶安年間(1650頃)真光法師が南部堂として開基、三世順哲法師が蓮光寺として堂宇を完成させました。九世雲鏡上人のとき安政の大地震に遇い、万延元年(1860)再建され、平成10年(1998)大字茂福に移転しました。境内には、真慧上人教化旧跡の碑や会津藩士有賀新之助が切腹したと伝えられる石が安置されています。



北鵜説教場(念仏道場)③⑩

明治中期頃、山分より寺院建物を譲り受け、当地に移転建立したのが始まりで、最も古い過去帳は、明治20年(1887)で鵜の住民全部が掲載されています。佛壇の中には地域を渇水から救った荒木十兵衛翁の位牌も祀られています。



富田山長興寺(曹洞宗) ⑬

養老年間の薬師如来をお祀りした草庵がその始まりとされ、養老6年(722)泰澄大師が大日如来を本尊とし、寺となると伝えられています。弘仁8年(817)弘法大師が再建され、仁治3年(1242)には満月上人が別当として錫留、北島長興寺と称しました。また、創建当初は貧窮者などを救う悲田院であったと言われており、天文14年(1545)南部甲斐守兼綱の菩提所として再建され、曹洞宗となりました。



立正山妙延寺(日蓮宗) ⑭

昭和7年(1932)桑名郡壽量寺住職の龍善院日源上人が、富田濱に法華道場を設立したのが始まりです。当時からの協力者である寛龍院日紳上人(尾張富田村の圓乗寺住職)と尾張富田村の横井長女史の助力により、昭和8年(1933)2月に一塔両尊と祖師像を奉安、昭和28年(1953)三木廉純法尼の代に妙延寺になりました。後に、当所に移転し現在に至ります。



古川町の地蔵堂 ⑮

大正から昭和初期、中納屋町の目が不自由な夫婦が、この地蔵さんに日参して、目がよくなるよう祈ったところ、いつの間にか目が見えるようになりました。お礼に地蔵さんのお供えや地蔵堂の掃除・飾りなど毎日欠かさず地蔵さんを守り続けたそうです。



アミカン本社事務所・正門・煉瓦堀 (国登録有形文化財〈建造物〉) ⑯

アミカン(株)は寛政6年(1794)創業。明治31年(1898)にわが国初の手動式製網機を開発。文化財3件は、昭和初期に網勤製網(株)が周辺の工場とともに建設。本社事務所は、木骨コンクリート造2階建塔屋付の建物で、スクラッチタイル貼りとモルタル洗い出しの外壁に、縦長窓が効果的に配置されています。内部も大部分が当時の意匠を残したまま、事務所として大切に使用されています。敷地西側にコンクリート造の正門を構え、左右に重厚な趣の煉瓦堀がつながっています。



浜元町観音堂 ⑰

元は北村字新起の墓地に無縁仏の供養塔がありましたが、昭和2年(1927)富田斎場が造られて合併されたのを期に、供養の灯りを点さんと現在の地に建立されました。ご本尊は、木曾下流長島の在家より譲り受けた約1尺8寸の木像で、室町末期か安土桃山時代のもものと推定されています。



巖谷小波の句碑 ⑱

「涼しさや 松こしに見る 伊勢の海」この句は昭和5年(1930)7月、児童作家であり「ふじの山」作詞者としても知られ、郷土玩具愛好家でもあった巖谷小波が造り酒屋「酒吉」の3代目伊藤吉兵衛宅を訪ねた折、富田浜の美しさに感動して詠んだ句を、石に刻んで平成4年(1992)に建立しました。



伊賀留我神社 ⑲

祭神:大日靈貴(天照大神)ほか3柱
10世紀初頭の記録にその名が記されており、富田地方では最も古く由緒ある神社です。この神社には旧暦10月の亥の日に催される「亥の子神事」、2月10日、11日に催される「日持ち神事」と五穀豊穡を祈願して行われる虫送りの大太鼓・大鉦が今に伝えられています。



富田城跡 ⑳

文安3年(1446)南部修理大夫頼村が城主となってから、約120年間領地を南部家の城主が守っていましたが、永禄11年(1568)5代目兼綱のとき織田信長による伊勢攻めで落城しました。城跡は現在の富田幼稚園・近鉄富田駅付近で、当時の名残りとして富田幼稚園に銀杏の古木が残っています。



四日市港ポートビル ㉑

四日市港の開港100周年を記念して、平成11年(1999年)に建設され、高さが100mあり、県内で最も高いビルです。最上階には展望展示室があり、すばらしい展望や展示が楽しめます。また1階には、貿易品の実物展示や姉妹港であるシドニー港のコーナーなどもあり、四日市港を身近に感じることができます。平成27年(2015年)には「日本夜景遺産」に認定されました。





富田地区市民センターからの距離(モデルコースに基づく)	
①史蹟 富田の一里塚	670m
②八幡神社	430m
③行啓記念道路の碑	370m
⑥善教寺	280m
⑧常夜灯	305m
⑩薬師寺	384m
⑫常照寺	630m
⑭證圓寺	760m
⑮茂福神社	1090m
⑯茂福城跡	1330m
⑰鳥出神社	430m
⑱願入寺	680m
⑲富田一本松	
⑳アミカン本社・煉瓦塀	
㉑巖谷小波の句碑	
㉒富田城跡	
㉓四日市港ポートビル	3830m

JR富田駅・近鉄・三岐富田駅

JR富田駅は、明治27年に関西鉄道の駅として、近鉄富田駅は、昭和4年に西富田駅として伊勢電気鉄道により開業されました。
近鉄・三岐鉄道の現西口駅舎は、平成20年から使用が開始されています。
JRの西口駅舎の建築時期は不明ですが、富田の祭礼行事の鯨船の屋形を、近鉄・三岐の乗降客が利用する西口駅舎は、鯨船行事の鯨を模した造りとなっています。



富田地区内開催の主な行事

行事内容	開催期間	開催場所
十四川桜まつり	4月1日前後から10日間	十四川沿い
虫送り行事	7月第1土曜日	茂福地内
行燈祭り(山の神)	7月15日前後の日曜日	旧東海道など
ユネスコ登録 富田の鯨船	8月14日	東富田町地内・古川町地内
	8月15日	鳥出神社境内等
市指定 無形文化財 石取り祭り	8月13日	茂福町地内
	8月14日	西町・茂福町・北村町地内
	8月15日	鳥出神社境内
北船町大太鼓・大鐘	10月20日前後の日曜日	伊賀留神社境内・北船地内
亥の子祭り	11月最終日曜日	伊賀留神社境内・北船地内
	勤労感謝の日	茂福神社境内・茂福町地内
どんと祭り	1月14日又は前後の土曜日	各地内の神社境内と東富田町・富田浜町地内
日待ち行事	2月10日・11日	伊賀留神社境内など

その他の主な行事

虫送り行事	7月第1土曜日	茂福地内(墓地公園)
山の神(西町の石取り・人形)	7月15日又は前後の日曜日	西町地内
山の神	12月7日	古川町地内
地蔵盆	7月24日	西町・古川町・茂福町地内
納涼祭(盆あどり大会)	8月の第1土曜日	富田中公園内
新春風物詩大会	1月の第2又は第3日曜日	富双公園内

とみだ まちあるき マップ 富田地区市民センターからの距離

旧東海道 北コース	およそ1時間	旧東海道 北コース	およそ2時間
旧東海道 南コース	およそ1時間	旧東海道 南コース	およそ2時間
産業まちあるきコース	およそ3時間		

注:各コースとも区間距離です

富田地区市民センター		富田地区市民センター		富田地区市民センター	
①史蹟 富田の一里塚	240m	⑥善教寺	25m	⑥善教寺	280m
②八幡神社	60m	⑧常夜灯	75m	⑧常夜灯	25m
③行啓記念碑	370m	⑩薬師寺	250m	⑩薬師寺	75m
富田地区市民センター		⑫常照寺	130m	⑫常照寺	250m
⑬鳥出神社	200m	⑭證圓寺	330m	⑭證圓寺	130m
せせらぎ公園	50~200m	⑮茂福神社	240m	⑮茂福神社	1200m
東富田の街並み	50m	⑯茂福城跡		⑯茂福城跡	640m
⑱願入寺	200m			⑳アミカン本社・煉瓦塀等	20m
富双緑地	450m			㉑富田一本松	450m
㉒富田一本松	450m			㉒鳥出神社	1700m
㉓鳥出神社	450m				

富田地区市民センターまでの距離
JR富田駅から475m・近鉄富田駅から290m